

いいたてまでいな復興計画・第5版(案)答申
ネットワーク型の新しいむらづくり



▲赤坂憲雄委員長から「ネットワーク型の新しいむらづくり」を基本とする第5版(案)が答申されました

村の諮問を受け、昨年7月から復興計画の策定を進めてきた「いいたてまでいな復興計画推進委員会」が3月18日、飯野出張所において答申を行いました。答申は「いいたてまでいな復興計画第5版(案)」としてまとめられ、委員会から村へ提出されました。

第5版

より多くの村民から
より多くの希望を

委員会では策定にあたり、より多くの村民の声を計画に反映するため、「教育」「暮らし」「健康・福祉・高齢者」「農地保全・営農再開」の4つの村民部会を新たに立ち上げ、委員の約半数が村民となる中で検討を行ってきました。

村民部会ではこれまで、避難生活の現状避難指示解除時を見据えた復興への取り組み方針や施策の提案が出されてきました。(部会での検討内容4・5頁)

最後の会議となったこの日は、部会の意見をまとめた計画書が示され、それに対して委員から様々な検討が加えられました。出された意見は今後、計画書に盛り込むこととし、まとめられました。

村内復興拠点エリアの検討

第4版の重点事業であった村内復興拠点・道の駅「までい館」の機能・役割について検討を行いました。

ネットワーク型の新しいむらづくり

どこに居ても、誰でも、村に関心のある方が村づくりに関われるよう検討を行いました。

新たな復興基金の設立

復興に応じたきめ細やかな支援をするため新たな基金「までいの村 陽はまた昇る基金」を設置します。

4つの村民部会を設置

村民の意見を取り入れた具体的な計画にするために、新たに4つの村民部会を設置し、計画の検討を行いました。

「ネットワーク型の新しいむらづくり」のしくみ

復興に向けた村づくりにあたり、第5版では「戻る人」「村外から村に通う人」「帰村しない人」さらに「村を応援しようとする人・企業」も村とつながり、かわりながら村づくりを進めるという考え方を基本としています。

一人ひとりに寄り添った復興

村は、これまで、「戻る人」「戻らない人」「戻れない人」それぞれに寄り添えるように復興計画第1〜4版を策定してきました。

そして、去年7月から始まった第5版の策定にあたっては、当面どのような環境整備や支援が必要か、また長期的にはどう復興を進めるかについて、具体的に検討を行ってきました。

道の駅「までい館」の運営方針

指定管理委託制度等を活用し、集客と収益を意識した管理・運営を目指します。また、若い人材の活躍と雇用の場を広げます。さらに、村の歴史・伝統を学ぶ「いいたて学」、文化・芸術イベントの企画・開催について検討していく環境を整えます。

第5版(案)は今後、全戸に送付されます。ご読の上、4月から開かれる予定の各行政区懇談会にもぜひご参加ください。

第5版 成案化までのスケジュール

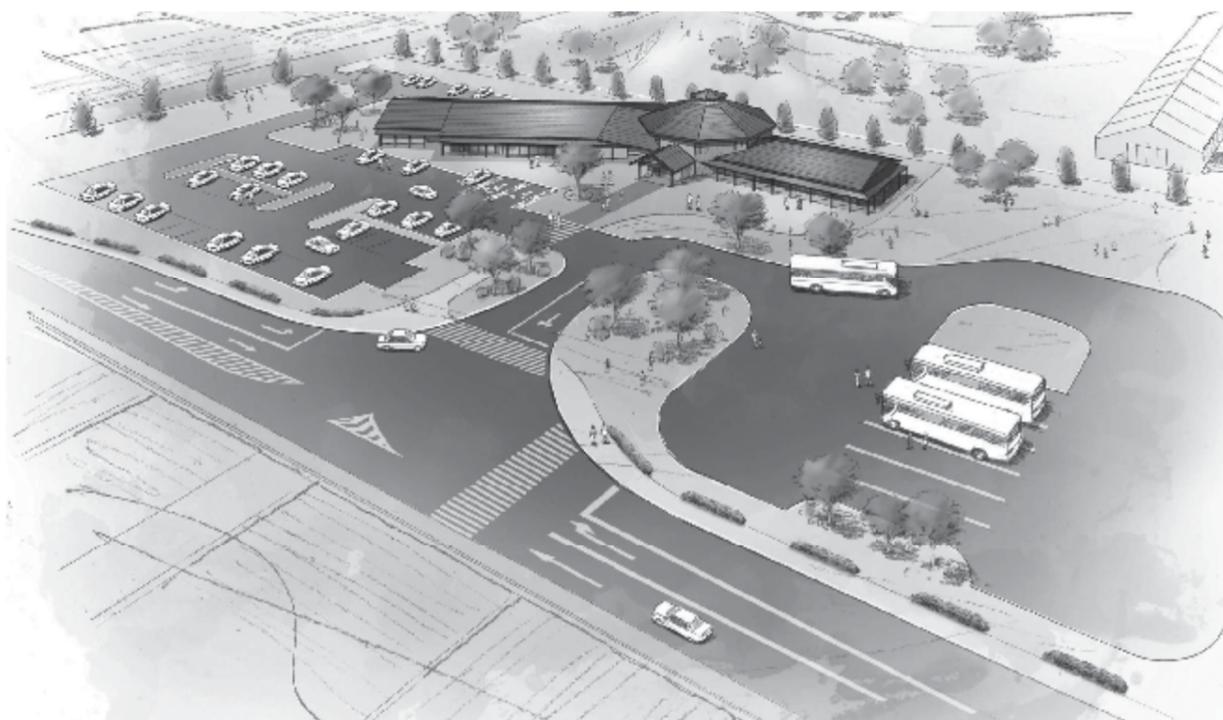
3/18 いいたてまでいな復興計画推進委員会の答申

3/26 村議会東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会です承

いいたてまでいな復興計画第5版(案)の全戸配布

4月〜5月 各行政区懇談会で説明 ※日程は後日、通知します。

6月 議会での検討・修正を経て成案化



▲深谷地区に整備を予定している道の駅「までい館」全体図(案)。村復興の中心的役割を担います